

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	NPO法人楽竹会		
代表者	奈良部 岩次	担当者	松島 克雄
所在地	〒246 - 0038 神奈川県横浜市瀬谷区宮沢3-16-6 TEL: 045-302-3142 FAX: 045-302-3142 E-mail: wtywq227@ybb.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	- 平成6年～13年：定年を控えた59才頃から地域の活動に参加（森の愛護会：竹炭焼きに取り組む。グループ活動、小学校との交流が朝日新聞「声」欄に掲載された）。 - 平成14年：有志が集まり「楽竹会」設立、すでに活動してきた仲間グループも合流して20名の会員になった。平成11年から活動してきた「竹とひょうたんの会」が「瀬谷区いきいき顕彰」を受賞。 - 平成17年：NPO法人楽竹会が神奈川県認証を取得 - 平成18年：横浜市「第14回横浜環境活動賞」を受賞		
団体の目的 ／事業概要	- 団体の目的：「現役時代に培った知識・経験を地域の自然環境保全の実践活動に活かして次の世代に継承しつつ、地域共生型の市民ネットワークづくり」 - 事業概要 ① 竹林の整備：竹炭焼き、竹酢液の採取、竹工芸品の制作、カブト虫の飼育、ひょうたん栽培、ホタルの里づくりその他 ② 環境学習：地元の小学校児童対象にひょうたん栽培、カブト虫の飼育他 ③ 竹琴太鼓による施設訪問演奏：心身機能回復・音楽療法の一環		
活動・事業実績 （企業の場合は 環境に関する 実績を記入）	1) 活動拠点 専用シュレッダー（350万円）・大型スクリーン・パソコン・プロジェクターを購入。炭焼き窯場・燻煙処理窯・車庫・機具製品保管場所・実験用農地。 2) 活動資金（平成19年度 除自己資金） ① 横浜市 ②大成建設 ③高齢者障害者福祉医療 ④相鉄線25駅まちおこしプロジェクト。 3) 事業規模（平成19年度） ①事業予算：270万円 ②延参加予定人員：4,000人 4) 受賞暦 ① 平成14年度：瀬谷区いきいき顕彰 ②平成18年度：第14回横浜環境活動賞 5) 報道 NHKラジオタ刊、「土と国土21」、新聞（朝日、読売、神奈川他）		
ホームページ	なし		
設立年月	平成14年 1月 15日	*認証年月日（法人団体のみ） 平成17年 3月16日	
資本金/基本財産 （企業・財団）	円	活動事業費/ 売上高（H17）	1,900千円
組 織	スタッフ／職員数 名（内専従 名） 個人会員 77名 法人会員 名 その他会員（賛助会員等） 5名		

政策のテーマ

校庭内を利用した環境に関わる体験学習

■政策の分野

- ・環境型社会の構築
- ・環境パートナーシップ

■政策の手段

- ・環境教育学習の推進
- ・市民ネットワーク

団体名：NPO法人楽竹会

担当者名：松島 克雄

■キーワード	地域共生	都市での環境型 自然体験学習	剪定廃材のリサ イクル	市民ネットワー ク	地域の拠点とし ての学校の活用
--------	------	-------------------	----------------	--------------	--------------------

① 政策の目的

学校・市民・行政・事業者等が校庭内にある樹木の維持・管理に協働で取り組む。剪定材や落ち葉は校外に搬出処理しないで、校内で粉碎処理・堆肥化後、多面的な用途に供することにより校外搬出ゼロシステム（リサイクル）を確立し市民参加による循環型社会構築の魁の役割の一端を担う。ムード先行型のエコロジー活動から脱し、世代を超えた地域の人とひと・人と自然環境に関わるふれあいの実践活動を通じて、地域共生型のネットワークづくりを図る。

② 背景および現状の問題点

・ **背景**：363万人の市民が生活を営むマンモス都市横浜は、「流域や沿線単位で独立するブロックであり、形成の時期・なりたちも異なる多彩な市街地からなる合衆体である」と評されるように、地域間の人口動態や構造、産業集積、生活環境などに大きな差異が顕在化されつつある。このような背景から市内を4つの都市ブロック（東部・西部・南部・北部）に分類した取り組みがなされているのが現状の姿だ。

一方、横浜の自然環境は、緑の七大拠点、8つの流域に象徴される自然環境・景観に恵まれ、水・緑環境の創造に向けて先進的な施策が示されている。（例：横浜市水と緑の基本計画、横浜市基本構想、横浜みどりアップ計画等・・・）

これら施策の実行に当たっては、協働事業提案制度、横浜会議、環境まちづくり協働事業、ヨコハマ市民まち普請事業等の制度の導入の他にエリアマネジメントの手法が導入されている。

・ **問題点**：150年間で約30倍に膨れ上がった人口を抱え、従来のタテ割り行政の渦中でもがき苦しむ市民の姿を知り、文字通り協働事業によるきめ細かな対応が求められていることを10余年の実践活動から学んだ。拡大・成長が進むまちと高齢化・人口減少が進むまちを抱える横浜の地域環境づくりで得られた知見は、わが国の都市政策・環境政策のありようを解き明かす力になるものと期待している。「文明とは文化の死のことであり、多くの市民は貨幣と情報によって新しい大都市住民に変身する」（O・シュペングラー「西洋の没落」）

③ 政策の概要

- ・ **誰が**：学校関係者・PTA・地域住民・自治体・町内会・活動団体・事業者・行政等・・・。
- ・ **どこで**：学校の校庭を使用する。
- ・ **何を**：校庭内の落ち葉集め・樹木の剪定・剪定材のチップ化・堆肥化・土づくり・ひょうたん栽培・カブト虫の飼育等に関わる現場作業に取り組む。
- ・ **どんな方法で**：①有志による勉強会 ②活動グループ立ち上げ ③現場作業開始
一年以上の準備期間が必要になるが、功をあせらずにじっくり取り組むことが肝要である。
- ・ **何故**：横浜のまちづくり・環境保全事業は、横浜市が示した指針を地域特性に反映させた実行が肝要である。そのためには、地域に関わる多くの関係者による相互理解・信頼関係を構築しながら地域共生型のまちづくり活動・市民ネットワーク構築へ発展させ地域の活性化を図りながら次の世代に継承する役割を担う。

④政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

P：地域に関わる多くの関係者が集まり、学校教育・地域の自然環境・生活環境・社会環境・土地利用等について意見交換を交わし相互理解・信頼関係を構築しながら現状を把握して課題・問題意識を共有する。必要に応じ他の地域の活動事例を見学して情報を入手する。

参考資料：①横浜市水と緑の基本計画 ②横浜市基本構想 ③横浜みどりアップ計画 ④横浜市民生活白書 ⑤横浜教育ビジョン ⑥地域との連携による学校づくりマニュアル等・・・

上記ミーティングを継続しつつ、多様な人とひとが語り合い・人と自然とふれあいながら、水と緑の自然環境を守り・育てて次の世代に引き継ぐ実践活動に取り組むための計画（目標）を立案する。

目標達成に必要な具備すべき条件をリストアップする。

- ① 組織体制の確立 会の運営マニュアルの制定、役員人事、実行責任者等・・・
- ② 年間活動計画
- ③ 資金計画
- ④ 施設・設備・機器類の調達計画
- ⑤ 現場作業に関わる安全指針
- ⑥ その他

D：実践活動

C：随時、関係者間の情報連絡・話し合いを実施。

A：実践活動の中で生じた課題・問題点等については、改善策を立て実施する。

環境政策の立案から実施に至るまでの心構えを下記に示す。

- ・ **立案段階**→演繹的思考方式による問題解決技法である「ワークデザイン法」を応用・活用することにより、地球規模の自然環境から地域の自然環境に至る課題・問題が容易に理解され、意識の共有化を図ることができる。
- ・ **実施段階**→帰納的思考方式による問題解決技法である「QC・IE」を応用・活用することにより課題解決に向け参加者全員のモチベーション効果が期待できる。

註：これら技法は駆使するものではなく、話し合いの思考方式に取り入れたい。

⑤政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

1) **実施主体**：地域の各小中高等学校・PTA・自治会・町内会・各種活動団体・事業者・行政等のメンバーで構成される推進協議会（仮）

2) **協力団体**：環境活動に取り組んでいる地域の愛護会グループ・NPO・行政・大学・研究機関・その他各種団体等。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

「地球規模で広がる環境破壊の影が、私たちの周辺にもしのび寄っています。都市型ライフスタイルが招いた地球の危機」。こんな見出しの記事が新聞紙上を賑わしています。環境問題は、一般社会だけでなく広く小中高校教育の場においても取り上げられるようになってきている。10余年にわたり地域の環境保全に関わる実践活動に取り組んで得られた貴重な教訓や示唆を反映させてまとめたのが、本環境政策提言である。

以下に期待される効果を列挙する。

- 1) 横浜市が推進する水と緑を軸にしたまちづくり協働事業や学校教育に対する一般市民の理解を深めると共に合意形成に寄与する地域共生型のまちづくり。
- 2) 多様な分野の人たちの話し合いが継続され、市民レベルのネットワーク化により次代を担う子どもたちに対する支援体制の確立への効果がある。
- 3) 伐採木や落ち葉の校外搬出ゼロシステムを確立することにより、資源循環型社会構築のモデル事業として環境に対する理念の共有を図る効果がある。また、児童たちにとっては、横浜という都市の中で自然によるリサイクルを直接体験できる場となり、環境問題へ関心を持つ効果が期待できる。
- 4) 完熟した腐葉土を活用した土づくり・ひょうたん栽培・カブト虫の飼育による一年一化の世界を実践活動で体験することにより自然界の営みに対する畏敬・尊厳の念を学びながら成長時期の人間形成・こころ・情操教育に寄与する。

⑦ その他・特記事項

1) 具体的な実施例

① カブト虫の幼虫プレゼント（100～150匹／学校）

間伐竹を専用シュレッダーで1.5m/mの厚さに粉碎し堆肥化実験用に畑に野積み放置しておいたところにカブト虫の幼虫が約2,000匹生息していた。下記学校に飼育用マット（竹チップを原料）を添え贈呈した。

・贈呈先：南瀬谷小学校、原小学校、三ツ境小学校、下瀬谷小学校、大岡小学校、横浜国大付属小学校、その他2校

② ひょうたんの栽培・仕上げ・展示会等に関わる協働授業

・学校名：横浜市立南瀬谷小学校

③ 校庭樹木の剪定材のチップ化公開実験（一部堆肥化実験）

・学校名：横浜市立南瀬谷小学校、三ツ境小学校

④ 横浜市平成19年度環境まちづくり協働事業「カブト虫を活用した環境学習」

・学校名：横浜市立南瀬谷小学校

⑤ 平成20年度は、自然体験学習コーナーとして都心型カブト虫飼育施設を設置する準備を進めている。

2) 横浜市の学校教育に関わるプラン

① 横浜教育ビジョン

② 横浜教育ビジョン 推進プログラム

③ 横浜市立高等学校改革プログラム

④ 子どもの社会的スキル横浜プログラム

⑤ 教育委員会新時代行政プラン アクションプラン

3) 神奈川県 of 学校教育に関わるプラン・事例

① 神奈川県家庭教育協働事業事業者連携事業

② 地域との連携による学校づくりマニュアル

③ 「地域との協働による学校づくりの取り組み」事例

④ 学校の教育力の地域への開放の活動事例

⑤ 児童・生徒・教職員と地域の方との学習・交流・協働事例